

Title	基督教社会主義者としてのキングスレー
Sub Title	
Author	横浜, 礼吉
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.10 (1922. 10) ,p.1483(109)- 1493(119)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19221001-0109

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

以上の數字は他の區より移動し來りて缺員の補充せらるゝものが頗る多數であることを示してゐる。さうしてその結果、建築業者、果實採集者、その他の臨時的勞働者は非常なる恩惠を蒙つたのである。然しながら一方移住費を多く支出しなければならぬことも注意を要する。

(J. L. Cohen: op. cit., pp. 170-172)
今、紹介所の一九一一年以來の統計を掲げ、その活動の一斑を示せば次の如くである。(茲に掲げたるは男子、婦人、少年、少女の合計數だけである。各別の數字は煩鎖であるから省略する。詳しくは J. L. Cohen の著書参照のこと)。

年代	登録總數	登録個人數	求人通告數	就職個人數	就職個人數
一九一一	一、九六五、九九一	—	七六九、六六一	六〇八、四七五	—
一九一二	二、三六二、二二五	—	一、〇三三、七八〇	八〇九、五五三	—
一九一三	二、八三六、三六六	一、七八三、九五一	一、一八三、三五六	八九五、二七三	六三二、六六六
一九一四	三、三〇五、〇五六	二、〇七六、一八七	一、四三六、六六三	一、〇八六、七三八	七九二、〇三四
一九一五	三、〇四七、〇二五	二、二三二、三九〇	一、七六一、〇九〇	一、二七九、九一八	一、〇三七、六八九
一九一六	三、四三六、四〇五	二、六六〇、四二五	二、〇一七、三六三	一、五三四、九二八	一、三三四、八九六
一九一七	三、四三二、一五四	二、七二九、二八五	一、九七四、三八三	一、三五六、三八三	一、三五九、七〇四
一九一八	三、五九四、三八三	二、九二四、四七一	二、〇三九、九三一	一、四九五、七七四	一、三一二、五七九
一九一九	五、九二八、九四七	四、七七四、〇一一	一、九〇九、四八九	一、二五八、九六五	一、一一一、八四七

これによると一九一一—一四年間に登録總數は六〇パーセントの増加、登録個人數は四三パーセントの増加、求人通告數は八八パーセント

の増加、就職個人數は八〇パーセントの増加、就職個人數は七四パーセントの増加を示してゐる。尙ほ簡單にして且つ明確に勞働紹介所の成績

を知らしめるものは次の比例である。一九一一年には登録者の三一パーセントが就職したが、一九一四年には増加して三七・六パーセントが就職してゐる。さうして求人通告數と就職數の比例は、一九一一年には七八・八パーセントであつたが、一九一四年には七五・五パーセントに減少してゐる。然しながらこの數字から一般的結論を抽出することは出来ない。それは失業保險法(Unemployment Insurance Act)によつて登録は強制的に行はれるが、尙ほ求人の通告は任意であるからである。(J. L. Cohen: op. cit., pp. 174-175)

宗教の社會的價値に重要な基礎を置き、之を礎となして立つ、基督教社會改革に二派ある、一つはカトリック派であり、他はプロテスタント派である。兩者は同一の教義より出發するものであるが、全く異りたる方面を探りて歩んでゐる。前者は又カトリック社會主義と稱せられて、カトリック教の隆盛なる國家に勢力を得、獨逸の Mainz 僧侶 W. E. Freiherr von Ketteler その代表的人物なり。後者即ちプロテスタント派は各國に於て各異りたる形體を探りて活躍なしつつあるものであるが、英國に於ける Charles

基督教社會主義者としてのキングスレー

横濱 禮吉

Kingsley (1819-1875) Frederick Denison Maurice (1805-1872) を中心とする所謂、基督教社會主義運動を以て最も著しきものとす。(C. Gide: Political Economy. pp. 30-32)

英國に於ける基督教社會主義は、モリス、キングスレーを初め經濟學者なる T. M. Ludlow 及び Thomas Hughes, Vansittart Neale なる法律家を中心として、Owenism, Chartist の批評として生れ出でたるものであつて、無制限なる自由競争を排して、生産協同組合を主張し、冷きメスの様な當時の經濟學說に對抗して寧ろ暖き博愛的なる人類同胞主義を主張したるものである。自由放任の學說の上に立ち自由競争を讚美する。マンチェスター學派に對して基督教社會主義者は反旗を翻したるのであつた。マンチェスター學派は十九世紀に於て、商業上の偉大なる勝利を得たるにも拘はらずその最後は災害であ

り滅亡である、彼等は正義ならざる原則の上に立つが故に、それは非基督教的であり反基督教的であると攻撃したる彼等は當時の産業制度を非難する點に於て、全く社會主義者と同一なる立場にあつたのである。キングスレーは彼等を攻撃して曰く、「R. Coates, J. Bright の經濟學說は狭少にして偽善、無政府的にして無神論的なる社會哲學の最悪なるものである」と。かくしてマンチェスター學派に反逆したる彼等は社會救済の方法として、利己心に代ふるに正義の原則が交換を支配する社會を實現せんが爲めに生産協同組合を設立し、且つ又神の御國を地上に建設せんがために教會自體の原始基督教會への復歸を主張したのであつた。基督教社會主義は基督教を社會主義化することであり、社會主義を基督教化することである。故に彼等は學說より生れ來れるものと云ふよりも、寧ろ宗教的熱

愛、人類愛に覺めたる人々の基督教的信仰より創造せられたるものにして、嚴密なる意味に於ける社會主義とは全く異なるものである。基督教的動機に依りて刺戟されたる人道主義者に社會主義なる名稱を單に附加したるに外ならないものである。

一八四八年四月十日 Kennington Common に於ける、Charist 運動崩潰後、労働者階級は總ての政治的運動を捨ててその勢力を労働組合の組織と消費組合の發達に向け、英國に於ける純社會主義的思想並びに運動は一時終熄の状態となつた。當時 Charist 運動の暴動に依り愕然と驚きたる上中流階級はかく世を不安にせしめた深き原因を知らんと欲した。丁度此時、Morning Chronicle に掲載されたる「ロンドンの労働とロンドンの貧民」と題する Mayhew の慘鼻の記事は、貧者に對し侮蔑的態度を採りたる富者階級

を極く驚かし、且つ又ロンドンのみは大陸諸國の都市に於けるが如きことなく、全く暴動より脱し得たと思惟した人々さへも不安なる状態を感じ來たのである。(T. Hughes: prefatory memoir to Alton Locke. p. 13) 嵐の後の靜穩は人々に來らんとする嵐を思はしめた。如何になすべきか。之れ多くの人々の求むる聲であつた。基督教社會主義はかくの如き空氣の内に生れ出でたるものである。

二

キングスレーは彼が未だ幼かりし時、一八三一年の Bristol の一揆を親しく見て、暴動をなせし人々を極く嫌惡したものであるが、その後、貧しき彼等と親しく交るに至りて、暴動の手段に訴へて迄、戦はねばならなかつた眞の理由を知るに至り、教會は此不安なる時代に外界に對して堅く門戸を閉し、説教にのみ之れ日を送る

べき時ではない、教會・僧侶は滿腔の同情を以て、沈み落ち行く民衆を引き上げ、惱み苦しむ彼等を宗教に迄立ち歸らせねばならぬと絶叫するに至つた。かく時代の慘狀に心を痛めたキングスレーは、如何に貧しき農民の友となり、酷使されつつある手工業者の味方であり同情者であつたかは、彼の社會小説なる *Yeast* 及び *Alton Locke* の内に詳細に描寫せられてゐる。

The Saint's Tragedy (1848年)の著者として若き大學生の間に有名になつたキングスレーは、當時田舎に於て貧しき農民と親しく交り、彼等の悲惨なる状態に接してゐた故に、彼が友人の誰よりも時代は如何に重大であり、危険なる危機に臨んでゐるかを痛感したのである。一八四八年の夏より、*Fraser's Magazine* に毎月連載した *Yeast* に於て心血を注いで農民の憐れなる有様絶え間なき不安、陰鬱、その内に自ら育れ來る

力したカーライルも思はず一氣に讀んだ程であるが、彼は後にキングスレーに手紙を送りて「巨弾は發せられた 嘲笑であらうと、賞讃であらうとその様な世の中の馬鹿な批評に耳を貸さずに君の目標に眞直に進んで行々給へ」と、彼を賞讃し且つ激勵したのである。(Mrs. Kingsley: *Charles Kingsley, his letters and memories of his life*. pp. 60, 77, 93-94)

當時彼は友人 Ludlow に書き送つた手紙の内で次の様なことを云ふてゐる。「私は何か爲したい。それが何んであるかただ神のみ知り給ふのだ。君は神を信する者は急がなくてもいいと云ふだらうが、私は神を信する者は急がねばならぬと思ふ。しからざれば地獄に落つべきものである」云。(T. Hughes: *op. cit.*, p. 14)

三

時は來た。 *Chartist* 蜂起の飛報がキングスレー

虐げられたる人々の激情を詳細に描寫して、彼の身近くに惱んでゐる人々の心の *Yeasty State* を世に警告したのであつた。かくして基督教社會主義者として街頭に出でたるキングスレーは續いて、基督教社會主義學說の倫理的方面を代表したるものであると稱せられる。 *Alton Locke, tailor and poet, an autobiography* (1850年)を公にし、仕立職工にして詩人なるアルトン、ロックが、慘酷なる *Sweating System* に虐げられて歩一步と *Chartist* に變り行く有様を書き、而して *Chartist* はよく此社會的害惡を救済することあたはず、神に依りてのみ初めて理想郷が實現せらるることを描寫したものである。 *Alton Locke* が一度市場に出づるや、勞働者は元より智識階級よりも彼が豫期せなかつた程の賞讃を博した。之れを彼の、最も偉大なる詩であり説教である「道、激賞された。 *Alton Locke* の出版に盡

一の居る *Everley* に傳はるや如何に示威運動がなされつつあるかを見んがために、彼は *Charter* の請願書が議會に提出せらるる前日にロンドンに來り、モーリスの *Lincoln's Inn* に於て、同志の人々と會合をなしたのである。此會合こそ後に至りて基督教社會主義を生み出すに至つた最初の同志の集ひであつた。其時彼等は直接に何等の行動をとることなく、深き注意を以て靜かに成行を眺めてゐたのであるが、宗教的熱愛に燃えたる彼等はこの悲むべき不安なる状態に對して到底黙すべきではなかつた。彼等は自己の双肩に掛る重荷を感じた。沈黙の時ではない。考ふべき日ではない。時は餘りに急だ。かくて彼等は民衆の中へと、巷へと出たのである。「吾等の爲めに祈つて呉れ。光輝ある光は今や東方より來らんとす」と、キングスレーは夫人に感激に充ちたる手紙を書き送つたのである。

(Mrs. Kingsley: op. cit., p. 62.)

かくてキングスレーは同志に代りて、自ら筆を採り英國労働者に與ふる宣言書を書き、charter 運動崩壞の翌日、即ち四月十一日を期してロンドン市中至る所の柱、壁にその宣言書を貼りつけたのであつた。charter は決して労働者の眞の友ではない。全智全能の神及びイエスこそ彼等のよき指導者であり、且つ又吾等 working parson こそよき味方である。而して「産業、科學、自由の光榮ある日は、今や東方より來らんとす。されど徳なき眞の自由、宗教なき眞の科學、神を恐れず同胞を愛せない眞の産業は此地上にはあり得ない。英國の労働者諸君よ、賢くあれ。諸君は自由にならねばならぬ。諸君は自由を得るにふさわしき者であらねばならぬ」と。(Mrs Kingsley: op. cit., pp. 62-64)之れぞ基督教社會主義者の最初の宣言書であつた。この宣言書の

總ての行に於て、イスラエルの豫言者の如くに近く來る可き日を英國民に警告したカーラヘルの影響を見る事が出来る。(V. Woodworth: Christian Socialism in England, p. 10)

當時既にキングスレーは、自分達の主義、主張を普及せしむるために定期刊行物を發行せんものと種々計畫してゐたが、一八四八年五月六日に「politics for the people」と稱する週刊新聞を發行し、主としてモーリス等編纂人となり、一時非常に世の注意を引いたが、資金欠乏の爲め、其夏の下旬に廢刊せざるを得ない運命となつた。キングスレーは parson Lot なる匿名の下に焼えるが如き言句を以て、幾多の寄稿をなしたのであるが、Letters to the chartists なる二通の寄書程、劇烈にして革命的なるものはない。(T. Hughes: op. cit., pp. 15-18. Mrs. Kingsley: op. cit., pp. 65-67. F. G. Masterman:

F. D. Maurice, p. 68)

友人や近親者は、かくの如き彼の左傾的行動は彼の將來を誤らしむるものと考へ、如何にしても、今の立場より離れしめんものと努めたのであるが、然し彼は妻に書き送りにて曰く、「私は虚言者とはなりたくない。私の歩む可き道は明瞭である。私はその道を辿つて行くのみだ」と。

(Mrs. Kingsley: op. cit., p. 69)

politics for the people の廢刊後、彼等は落膽失望することなく反つて結束を固くし、モーリスの Lincoln's Inn に毎週集合し、何等か社會救済の方法を發見せんものと種々論議計畫したのであつた。(Masterman: op. cit., pp. 70-71)一八四九年の夏、巴里に行きたる Ludlow 及びその同志は佛國労働者組合の友愛の精神に満ち、物質的にも非常に繁榮せるのに極く心酔して歸り、(Woodworth: op. cit. p. 14) Sweating Sys-

tem の鐵鎖より労働者を解放する最良の手段として、佛國協同組合の始祖 Buchez の教より發せし、此等の佛國組合を英國にも建設せんものと、同志と計りて遂に同年の秋、The Society for promoting working men's Association を設立し、續いて翌年仕立職工の生産者組合が先づ成立するに至つた。他方協會の主旨を普及宣傳する目的を以つて、一八五〇年二月十九日にモーリスの管理の下に Tracts on Christian Socialism は發行せられ、續いて同年十一月二日に Ludlow の主筆の下に、The Christian Socialist なる週刊新聞が發行された。(Hughes: op. cit., p. 21) 基督教社會主義なる名辭は此時初めてモーリスに依りて採用せられたるものである。The Christian Socialist の第一號に parson Lot なる匿名の下にキングスレーは、Cheap Clothes and Nasty を發表し、ロマンの窮迫の

根原である。古着商の Sweating System を攻撃した。

モリスの豫期した如く (Woodworth: op. cit., p. 15) 基督教社會主義運動に對する攻撃は創立者の思想・行爲に對するよりも寧ろその用ひた「基督教社會主義」なる名稱に集中された。此名稱は神學者・經濟學者及び社會主義者にも同様に不快なるものであつた。キングスレーが彼等の代表的使徒として猛烈に自由競争を罵つたと云ふこと、及び共產主義と社會主義との混同したと云ふ點に於ても攻撃されたものであるが (Hughes: op. cit., p. 109) 主として各方面の攻撃はこの名稱を使用したことに大なる原因を有するものである。この温健なる生産者組合も、當時の支配階級には從來の主従關係の根柢を覆す所の非基督教的にして革命的なる共產主義の如くに目に映じたるものなるが故に、たと

ものにせよモリスが自分達の運動を社會主義的なりと考へたるは又一面無理ならぬことである。されど彼は原理に於て一般の社會主義との差違を辨別せるが故に特に基督教なる接頭字を附加したのであつた。此名稱が用ひられた時、同志の一人なる Neale も之れを非難して曰く、「社會主義者でない基督教徒を失ふと共に他方基督教徒でない社會主義と離反する恐れがある」と。かくの如く基督教社會主義なる名稱を採用する出發點より内外共に問題となりたるもので、モリスは此等の攻撃に對して何等の用意もなく、ただ漠然と此名稱を用ひたるもので正確なる定義と云ふよりもむしろ一種の感情であつたと云ふ方が妥當であらう。(Woodworth op. cit., pp. 15-17)

かくて彼等は「一八五一年の終りに The Chri-

stian Socialist なる名稱を捨て、その代りに一八五二年十月三日に彼等の主義・目的にふさわしき The Journal of Association が發行せられ、協同主義の原則・精神を普及することのみをその全力を盡した。されどウェッブ夫人が明快に指摘せる如く、生産者組合は明かなる失敗に終りたるが、(Beatrice Potter (Mrs. S. Webb): The Co-operative Movement in England. chap. V.) 同刊も遂に同年六月二十八日に廢刊するに至り、基督教社會主義者としての彼等の團體的社會運動は此處にその影を潜むるに至つた。(Hughes: op. cit., p. 43. Mrs. Kingsley: op. cit., p. 135) キングスレーは The Christian Socialist の終りに parson Lot の最後の言葉を與へその終りに曰く、「The proper impulse has been given, wait a little longer.」

四

基督教社會主義者としてのキングスレーの社會思想を見るに、彼の社會主義的思想は、Alton Locke (p. 421) の中に於てよく云ひ表はされてゐる如く、社會の缺陷を救済する唯一の方法は利潤を資本家に擽取せらるることなく、相互に働きて利益を均等に分配する協同組合を造りて人々を基督の名の下に悔改めさし、仕事場を工場ではなく一大家族にすることにあつた。されど彼は協會や協同労働のみが、唯一の手段とは考へなかつた。國民教育、衛生事業、住宅の改善、土地法案の改正等も社會救済の方法として等閑視はしなかつたのである。(Hughes: op. cit., p. 21) 彼の夢想せし理想郷は「神の御旨に従ひて自由・平等・博愛を地上に實現することにあつた。卷狀や共和の如き外面的な人の業を以てせず、堪へ忍びて各自の内に燃えるが如き魂を以て及に依らず、十字架により惱める勞

働者に福音を興えることであつた。「汝等の魂は忍んで待ち望めば、主の來り給ふは間近にあり、と果して主は來ませり。バベルの塔の倒れし如く、更に恐る可き極悪非道の黄金の虐政も遠からず倒る可し。時至れば勞働は自由の天地に解放され、全地は主の智慧を以て充され、世界は神と聖者のみによりて治められん。この時ぞ、自由、平等、博愛は示され、天上には榮光神にあれ、地には平安、人には恵あれと、萬國民は永久に讚め歌ふのである」と、豫言者の如く、野にありて叫んだのあつた。(Alton Locke. p. 433)

キングスレーはその當時既に「神の意志であり又その賜物である民主主義」が、英國を初め世界の政治的社會的組織を改變せんと、非常な勢を以て押し寄せつつある風潮を洞察したのであつた。(Alton Locke. p. 405)「民主主義は、教

に於ける charist との會合の席上に於て「I had a church of England, and a Chartist」と大膽に宣言したのである。(Hughes: op. cit. p. 19)好戰的な血を受けた彼は敵に對して勇敢に挑戦したことはあるが、それは本質的なものではなく、反つて彼の敏感なる性質が、ややともすれば彼をしてかく大膽に行動せしめたのであつた。(Ibid. p. 24)されど彼の本質は革命家ではなかつたのである。モリスと異りて、キングスレーは詩人であつた。耳目に觸れる悲惨なる物語社會の害惡に接して強く感じ、感情の向くがままに、宗教的熱愛に驅れて、民衆の中へと出たのであつた。貴族の生活、習慣に多くの憎れを持つ彼は自己の周圍に集れる民衆の内に全くはいれきれざりし悲哀を他面に於て有するものであるが彼の良心と、正義の心は彼の身命を賭して社會の渦卷の中へと身を投じたのである。

會及び國家の新要素である、今やその善惡を論ずる暇もない程、押し迫つた問題となつて來た、吾等は今日ただ、民主主義を基督教化することである」(Mrs. Kingsley: op. cit. p. 58)「吾等の欲する眞の民主主義は教會や女王を度外視しては、存在の理由なく、尙ほ又紳士社會も其存在の上に必要なるものである」と、彼は考へた。(Ibid. p. 130)キングスレーは本質的に、カーライルの影響を受けた、よき意味に於ける貴族主義者であつた。地主階級の貴族主義は國家を幸福にするものであり、地主階級なくして最高の自由を國家は獲得することが出來ないと迄考へたる程、彼の民主主義は貴族主義的であつた。(Hughes: op. cit. p. 24)

嘗て「自分は革命家ではなから」(Mrs. Kingsley: op. cit. p. 56)と表明した彼がその二年後、即ち一八四八年の初夏に The Cranbourn Tavern

さわれ静温なりし彼の後年を省みる時、彼自身を云ひしが如く、キングスレーは「革命家でもなく、」豫言者及び豫言者の息子でもなく、洵に彼は、「羊を飼ふ牧羊者であつた」のだ。(Ibid. pp. 25-26) (完)

新刊紹介

遠藤友四郎著

無政府共產主義の根本批評

四六版 四五五頁
二四五十錢 下出書店

所謂危険思想の内でも最も危険視せられる程度の高いものは無政府共產主義であらう。明治大正時代を通じての筆禍史の重要な部分は恐らく無政府共產主義の主張者によつて占められてると云つても差支ないであらう。今回寄贈を受け